

孫からのてがみ

中央区・城山支部
(西田橋有馬病院) 小田原良治

「あやかちゃんから お手紙だよ」。妻の声
がした。

仕事なんかやめた。仕事どころではない。

受け取ってみるとピーターラビットのハガ
キに鉛筆文字が書いてある。孫からのハガキ
だ。雑誌か何かを切り取ったハガキのようだ。

そうか、敬老の日が来るのだ。

コロナ疎開で、われわれ夫婦と孫と3人で
暮らした日々が懐かしい。

鹿児島にやってきた時は5歳だったな～。
もう小学1年生。7歳なのだ。

コロナの移動制限で永く会っていないと一
足飛びに大きくなったような気がする。

つい1年前の爺婆孫の3人暮らしが遠い昔の
ようだ。

東京に帰る時、鹿児島空港での別れに泣い
た孫も、もう泣いたことすら忘れてること
だろう。

ハガキの表に、娘の字で、小田原良治様・
淳子さまと書いてある。ひっくり返して裏を
見る。裏は、ピーターラビットの絵柄の中に、
鉛筆文字がていねいに書いてある。孫の字だ。
にこにこマークが描いてあり、「あやかより」
と書かれている。あ、お人形さんの絵も描い
てある。それらしい絵になったなあ。髪が長
いところをみると女の人のようだ。あやかち
ゃんかな、おばあちゃんかな。

あれこれ考えながら、もう一度最初から読
み返してみた。

おや、「おばあちゃんおじいちゃんげんき？」
で始まる。あ～、おばあちゃんが先だ。読み

進めた。「おばあちゃんおじいちゃんいつま
でもけんこうでいてね」とある。ここもまた、
おばあちゃんが先だ。「え～」と私は言う。
妻も気づいていたらしい。妻は「気にしない・
気にしない」と言いながら、なんだか嬉しそ
うにしている。

半年、同居して、「うちのリーダーはお
ばあちゃんだよ」と猛反発した孫にとって、
今でもやはりリーダーはおばあちゃんなのだ。
ご飯を作ってくれる人にはかなわないな～。

鹿児島の娘と孫が敬老の祝いをしてくれた。
鹿児島の孫は「おじいちゃん・おばあちゃん」
と書いてあった。鹿児島の孫が言ってくれた。
「あやかちゃんの一番の味方はおじいちゃん
だったのに、おじいちゃんかわいそう」と。

鹿児島の孫は中学3年生、東京の孫は小学
1年生。あやかちゃんはいつになったら「お
じいちゃん・おばあちゃん」と言ってくれる
のだろう。

周りから、「ずっと、おばあちゃん・おじ
いちゃん だよ」という声が聞こえるような
気がする。

